

小中一貫教育 義務教育学校の取組

南さつま市立坊津学園

本学園は、本年4月に

県内初の義務教育学校として開校しました。南さつま市の南西に位置し、南さつま海道八景の一つ「双剣石」を見下ろす新校舎で1～9年生134人の児童生徒が一緒に学んで5年目です。

地域の教育に対する期待は高く、コミュニティ・スクールの指定校でもあり、保護者、地域の方々は様々な教育活動に当事者意識を持って、参画・協力しています。

【義務教育学校とは】

平成28年4月、現行の学校種（小学校、中学校、高等学校、大学等）に加え、小学校から中学校までの義務教育9年間を一貫して行う新たな学校種として「義務教育学校」が制度化されました。

【義務教育学校開校までの歩み】

南さつま市では、新しい学校づくりの観点に立



写真1【入学式での入場の様子】

つて、学校と行政、保護者や地域住民の方々と十分な協議を重ね、坊津学園として小中一貫教育を推進してきました。

平成22年4月に坊津地区の4小学校と2中学校が再編準備委員会での協議を経て、施設分離型の小中一貫校としてスタート。平成25年4月には施設一体型の小中一貫校として現在の地に新校舎を建設し開校。そして、この7年間の小中一貫教育の実績を踏まえ本年4月に義務教育学校として開校しました。

本学園の大きな特色は図1のとおり、1～4年を前期ブロック、5～7年を中期ブロック、8・9年を後期ブロックとする「4・3・2制」で学年を区切っていることです。特に、中期ブロックにおける教

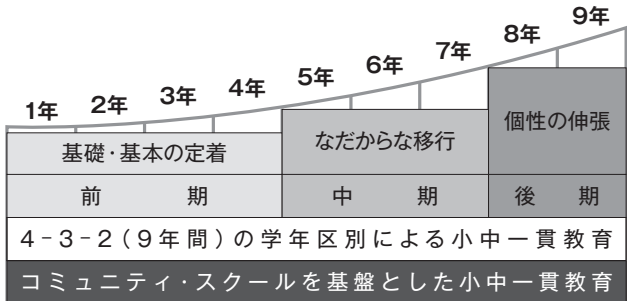


図1【坊津学園の小中一貫教育イメージ】

育課程のなだらかな移行は、本学園の小中一貫教育の要となっています。

【特色ある教育活動】

★1～9年生の一体感

入学式、卒業式、体育祭、学園祭などは、1～9年生全員が参加し、写真1のように入学式ではランドセルを背負った新1年生を9年生が手をつないで入場します。また、その他にも、月に一度、「絆の日」として異年齢の交流活動を実施し、思いやる心を育んでいます。

す。

★特例教科

表1にもありますが、子どもたちがふるさと坊津について9年間で系統的に学習する特例教科「坊津学」を設定し、3領域の学習を通して、地域を愛する、誇れる子どもの育成を図っています。特に「海に学ぶ」のカリキュラムについては、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと連携した海洋教育の研究が2年目になります。

★宿泊行事

宿泊行事を各ブロック

で1回ずつ実施します。

本年度から4年生は、地区公民館を利用して地域資源、地域人材を活用した体験活動を通して1泊2日の宿泊学習を計画しています。6年生は1泊2日、8年生は2泊3日の修学旅行です。

★児童生徒会

子どもたちが一体となった自主活動を推進するために「児童会」「生徒会」を「児童生徒会」として中・後期ブロックで組織し、各ブロックリーダーを核とした活動の充実を図っています。

本学園は、旧坊津町にある唯一の学校です。

旧4小学校区に子どもたちの声を響かせ、21世紀に子どもたちが一人を羽ばたかせる学園として、義務教育学校にふさわしい新しい教育実践を積み重ね、地域とともにある学校づくりを推進してまいります。

（教頭 上 恭崇）

	義務教育学校 坊津学園	他の小・中学校との違い
修業年	○9年 9年一貫した教育課程 ○1年生で入学式 9年生で卒業式	○6・3制を廃して、小1が1年生、中1が7年生となります。また、入学式は1年生、卒業式は9年生で実施します。 ○卒業アルバムは9年生で作成します。
教育課程	○柔軟な学年の区切り 1～4年:前期ブロック 5～7年:中期ブロック 8・9年:後期ブロック ○特色あるカリキュラム編成 ○特例教科「坊津学」の設定	○9年間で6・3制ではなく、4・3・2制の3つのブロックに分け、それぞれの教育目標、教育課程の編成を行います。 ○数学、英語科のカリキュラムを弾力的に編成します。 ○「坊津学」では、「地域に学ぶ」「歴史に学ぶ」「海に学ぶ」の3領域のカリキュラムで学習します。
組織・免許	○校長1人、教頭2人、教諭18人、養護教諭2人、事務職員1人 ○教員は原則小・中免許状を併有	○小中の区別なく配置された教員が一体となって、一部教科を教科担任制にします。 ○前・中期ブロックの教科担任制 1～6年音楽・図工、5・6年算数 3～6年理科、6年体育、7年全教科 ○5年担任担当週授業時数(17時間) ○6年担任担当週授業時数(15時間)

表1【坊津学園と他の小・中学校との違い】